指導と評価の年間計画（シラバス）

学校番号	1205
大阪府立岬高等学校　総合学科	

令和　　2 年度　　理　　科

教科	理科	科	科目	科学と人間生活	単位数	2　単位	年次	2　年次
使用教科書（出版社）		改訂　科学と人間生活(東京書籍)						
副教材等（出版社等）		なし						

1．担当者からのメッセージ（学習方法等）

身近な自然現象や最新科学技術に触れ、また日常生活で実際に使用されている科学的な事象を考え、知識と経験がリンクするような授業を進めます。生物や地学、物理、化学はそれぞれ別個のものではなく、自然現象を理解するためにはそれらを組み合わせて考えることが大切です。自然科学に親しみ、身近な疑問や現象を自身で探求、考察し、科学的な認識を持てるよう、念頭において授業に取り組んでください。

2．学習の到達目標

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解し、科学的な見方や考え方ができるようになる。また、科学に対する興味・関心を持つ。

3．学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：観察・実験の技能	d：知識・理解
観点の 趣旨	日常生活において目にする自然現象や科学技術に興味を持ち、自ら進んで疑問を解決しようとするか。	興味をもった自然現象や科学技術を科学的に探求、考察することができるか。	自然現象や科学技術を科学的に考察する際、正しい手順で観察や実験が行えるか、必要な知識を自身で検索できるか。	自然現象や科学技術を探求、考察する際に必要となる基本的な知識を身につけているか。
評価 方法	ノートなどの記録や発表	ノートなど探究活動の記録 定期考査	ノートなど探究活動の記録 定期考査	ノートなどの記録や発表 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法
1学期	生命の科学	生物と光	植物の生育と光		○			a.身近な農作物の栽培と光条件の関係や光への生物の反応に関心をもつ。 b.光条件と植物の成長や光へ反応する生物の究極要因を考察する。 c.観察をとおして光条件と植物の生育の関係や生物の光への反応のデータをまとめる d.植物の生育や生物の光りへの反応の至近要因を理解し、考察に活かすことができる。	ノート 記録と発表 探求活動の記録 定期考査
			光りシグナルと生物				○		
			人の視覚と光	○					
		微生物とその利用	さまざまな微生物			○			
			微生物と人間生活の関わり	○					
2学期	物質の科学	材料とその利用	金属				○	a.身近に存在する物質に性質とその利用について興味を持つ。 b.身の回りの物質と利用について、その性質から利用法を考察する。 c.身の回りの物質の性質を実験を通して確かめることができる。 d.物質構造とその性質の関係性を理解することができる。	ノート 記録と発表 探求活動の記録 定期考査
			プラスチック				○		
			資源の再利用			○			
		衣料と食品	衣料		○				
			食品	○					
	光りや熱の科学	光りの性質とその利用	目に見える光りの世界	○				a.身の回りの光や熱を利用する製品に興味を持つ。 b.光や熱の性質から製品の仕組みなどを考察する。 c.実験を通して光や熱の性質を調べることができる。またその実験を計画できる。 d.熱や光の性質を理解することができる。	
			光りの進み方としの基本性質				○		
			見えない光りとその応用				○		
		熱の性質とその利用	熱とは何か	○					
			熱と人間生活		○				
3学期	宇宙や地球の科学	身近な天体と太陽系における地球	天体が刻む時		○			a.身近な天文現象や天災について調べようとする。 b.天体や自然景観の観察からその仕組みを考察する。 c.天体や自然景観を観察する技能を身につける。 d.天体や自然景観の成り立ちや運動を理解する。	ノート 記録と発表 探求活動の記録 定期考査
			太陽系の構造				○		
			太陽が動かす大気と水			○			
		身近な自然景観と自然災害	身の回りの景観の成り立ち			○			
			自然災害と人間	○					